



令和6年2月27日  
佛教大学附属こども園



「仏教保育3月のねらい」

ちえきぼう  
智慧希望

「輝く未来への第一歩を踏み出すために」

園長 佐藤和順

今年度も残りわずかとなりました。三寒四温を繰り返しながら、一步一步春に近づいています。3月は進学・進級に向けてのまとめの月です。

今月の保育目標は「智慧希望(ちえきぼう) 希望をもち楽しく暮らそう」です。いつも希望を胸にもち、明るい明日の生活を目指して、よく学び、よく働き、すべての人のために楽しい社会を生み出すように努めることの大切さを感じてほしいと考えています。

「智慧」とは「物事の筋道が分かり、うまく処理していける能力」のことです。小学校の『学習指導要領』においても知識を学ぶだけでなく、それらをどのように活用するかを考え、「何のために勉強するのか」という意識を持つことが重要だとされています。このような力は入試においても問われ始めています。ある県の公立高校入試において「自己表現」という入試が実施されています。高校入試なので中学3年生が受験します。自分自身の得意なことやこれまで取り組んできたこと、高校入学後の目標について、自分の選んだ言葉や方法で自分らしく表現した「自己表現カード」を作成し、その内容を試験官の前でプレゼンし、質問に回答するという方式です。これから大人になり、社会に出ていった際に必要となる自分自身のことを理解する「自己を認識する力」、自分の夢や目標、やりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自らの意志で決める「自分の人生を選択する力」、自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえるように、相手や場面に応じて、工夫しながら伝える「表現する力」がどの程度身につけているのかを確認するという意図で実施するとのこと。

単に知識を増やすことではなく、得た知識をいかに使うのか、まさに「智慧」が問われています。「智慧」を身につけるためにこども園では、「知恵」「知識」を得るための準備段階として心の根っこの部分を育てることに重点をおいています。しっかりとした根がなければ、その上にしっかりとした幹や枝は育ちません。花や実をつけることを急ぐのではなく、花や実をつけるための土台となる根をしっかり育てたいと考えています。

身につけた「智慧」を社会にいかすことができれば、「希望」となります。「智慧」を身につけ、「希望」に転じるためには、個人や園や家庭が個別に努力するのではなく、地域社会を含めた連携が必要になるでしょう。「智慧」を育てることこそが、子どもの輝く未来への第一歩となるのです。

最後になりましたが、保護者の皆さまには1年間温かく見守っていただき、園の運営にご理解ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。この場をおかりしまして厚くお礼申し上げます。

